

日社大市民公開講座

日本では、認知症高齢者がついに300万人を突破しました。

認知症は、環境の変化についていくことが難しい病気と言われており、特に災害時は急激な変化の最たるものといえます。東日本大震災では、避難生活をした40万人の中に、認知症の人と家族も多数含まれていました。

そこで今回の公開講座では、東日本大震災のとき、一体何が起きたのか学んでいきます。東日本大震災で起きたことの中には、認知症の人の支援者に限らず、障がい者、子どもへの支援者も含め、すべての人が知っておくべき共通の課題が隠されているはずです。

次に災害が起きたときに備えて、あるいは利用者・家族が危機状況に置かれたとき、私たち市民や地域社会は何かができるのか、「支援ガイド」などを参照に共に考えていきましょう。

2014.7.5 SAT [土]
13:00 ~ 16:30 (12:30開場)

参加費 無 料
定 員 300名
(先着順)

日本社会事業大学 講堂

(東京都清瀬市竹丘3-1-30)

※手話通訳があります

プログラム

総合司会：大島 千帆 (日本社会事業大学特任准教授)

13:00 | 開会挨拶

13:10 ~ 13:40 | 基調報告 下垣 光 (日本社会事業大学准教授)

「認知症の人と介護家族が
安心して暮らし続けるために」

13:50 ~ 14:50 | 講演 矢吹 知之 (認知症介護研究・研修仙台センター主任研修研究員)

「避難所における支援 ~支援ガイドから~」

14:50 ~ 15:00 | 休 憩

15:00 ~ 16:20 | 対談 司会：下垣 光 (日本社会事業大学准教授)

「災害の時に認知症の人と介護家族へ
どのように対応していくか」

矢吹 知之 (認知症介護研究・研修仙台センター主任研修研究員)

柿沼 矩子 (川崎市認知症ネットワーク代表)

鈴木 博之 (東村山市北部地域包括支援センター所長) ほか

16:20 ~ 16:30 | 閉会挨拶 丸山 安三 (日社大をかこむ地域福祉連絡会会長)

参加者には「避難所での認知症の人と家族支援ガイド」
(認知症介護研究・研修仙台センター監修)を配布します。

※ 本事業は全国生活協同組合連合会・全国労働者共済生活協同組合連合会の
助成を得て行われるものです。

東日本大震災の経験から学ぶ

認知症の人と介護家族が
安心して暮らし続けるために

2014年2月15日(土)延期になった講座です。

